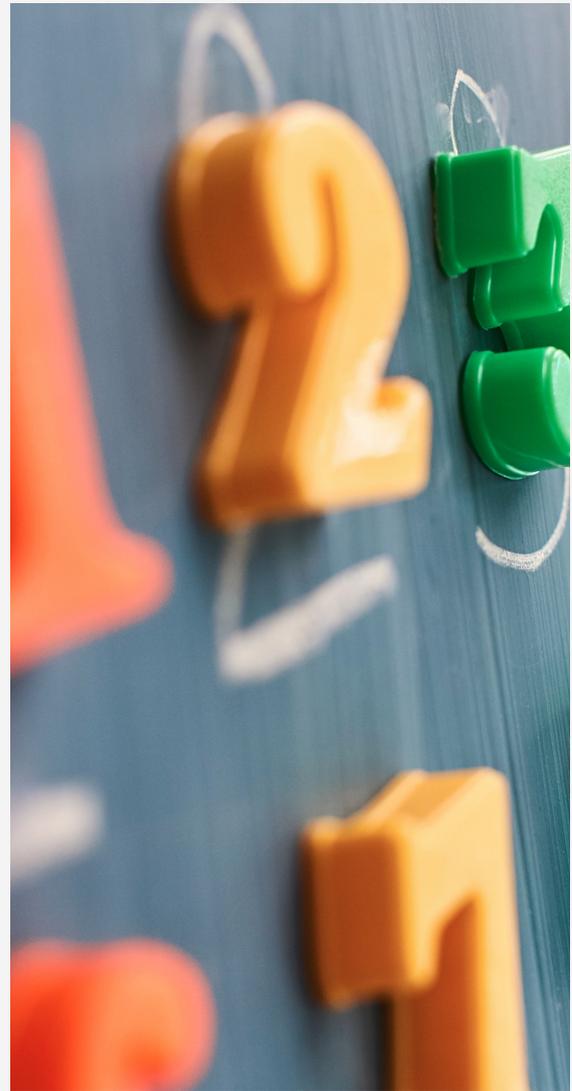


家庭と共に考える 保育プロセスの質

- 保護者と繋がる情報発信 -

すみだ中和こころ保育園



保育の「今」を見せるために

保育所保育指針が改定され、子どもの主体性や協同性を大切に、保育の質の向上に努めてきた。保育のねらいや過程を保護者と共有する為に、行事後の掲示や季節毎のお便り等を継続していたが、事後の結果ではなく「今」の子どもの姿を保護者に伝えることが出来ているのか疑問に思った。また、コロナ禍の影響で保護者との関わりが希薄している中、保育のねらいや過程を保護者にどのようにアプローチしていくのか課題にあった。

主体的な子どもの遊び・学び、発達に合わせた保育プロセスについて具体的に発信する手段としてポートフォリオを活用し、保育の見える化を図っていききたい。上記の思いを保護者に伝えることで安心感・信頼感へ繋げる実践を行うと共に、保護者と思いを共有する上でどのような関わりを意識しているのか職員間で改めて見直し、保護者との関係性を深めていききたいと考える。

保護者へのアプローチ方法や ポートフォリオについての振り返り

①ポートフォリオの作成・掲示を行う中で保育園からの一方的な発信だけでなく、家庭との情報共有や保護者とのコミュニケーションを図ろうと、自由にコメントを記述できる付箋を用意し、掲示横に設置する。



②乳幼児職員を対象にポートフォリオや保護者対応に関するアンケート調査を行う。ポートフォリオを作成するにあたって意識したこと、保護者からの反応やコメントはどのようなものがあつたか等を見直し、職員間で共有・改善をする。

保護者とより良い信頼関係を 築くためにできること

ポートフォリオや保護者への対応に関して乳幼児で同等の取り組みを行っていたが、それぞれに保護者の反応が異なった。幼児では付箋でのコメントがほとんどなかったが、ポートフォリオを通じて職員と保護者の対話が生まれていた。乳児はポートフォリオへの保護者の反応が様々に見られ、コメントや連絡帳を通して子どもの様子を共有することが出来ていた。



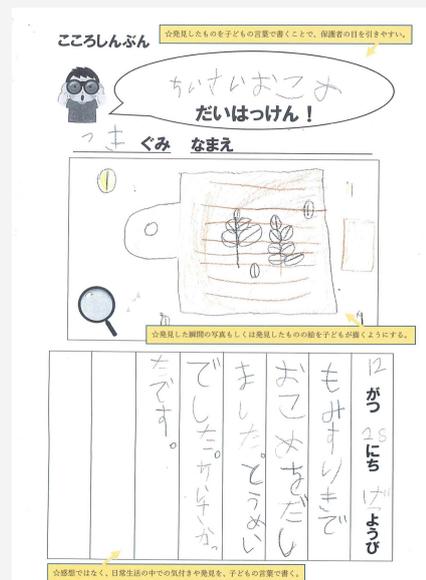
一方、ポートフォリオの書き方として「〇〇しました、できるようになりました」という結果や活動報告になっている点があがり、子どもが興味を示している対象、活動中の熱心に取り組む姿、保育者が生活や遊びで援助している様子や言葉掛けを保護者と共有する必要があると感じた。

子どもは興味・関心のあることを探求しようと、保育者だけでなく家庭で保護者にも話し共有をする。その声が保護者の元へ届くことで保育園での子どもの姿や育ちを感じ取ることができるのではないかと考える。

保護者や子どもと共感する「瞬間」を大切に

子どもが興味や関心を寄せる事柄について、実際の子どもの言葉を文字や絵にするという子ども目線の発信が保護者に伝わりやすいのではないかと考えた。そのために保育者は①子どもの発見を見逃さないこと、②「知りたい」「調べたい」と探求する姿勢を大切に、ヒントを与え過ぎないこと、この二点に留意しながら保育を行いたい。

今後の取り組みとして以前から幼児で取り組んでいた発信ツール“こころ新聞”の様式を見直すこととした。保護者が子どもの興味を知るきっかけとなり、家庭でのやり取りや保育との繋がりが生まれることを望んでいる。また、こころ新聞を通じて他の子どもが興味を広げ、個の学びとしてではなく、協同的な学びに繋がるよう内容に合わせてクラスで共有していきたい。



今回の取り組みを通し、ポートフォリオを活用しながら子どもの「今」の姿や成長過程を伝えることで、保護者が保育に関心を持ち、子どもへの関わり方を共有していくことが出来ると分かった。今後も子ども自身の声や発信を大切にし、保育の見える化を図ることが保護者支援にも繋がるのではないかと考える。